

「70歳定年」に関する調査**70歳定年／雇用延長はサラリーマンの“救世主”になるのか？
～70歳雇用の光と影～**

一般社団法人 定年後研究所（東京都港区、所長：得丸 英司）は、「70歳定年／雇用延長」（以下、「70歳定年」）に対する気持ちや65歳以降の働き方に対する考えを明らかにするために、定年制度のある組織に在籍する40～64歳男女516人に、「『70歳定年』に関する調査」を実施いたしました。

主な調査結果は以下の通りです。

1. 「70歳定年」に対し、アンチ歓迎派（約6割）が、歓迎派（約4割）を上回る

- ・「70歳定年」に対し、「歓迎できる」42.6%、「困惑・とまどいを感じる」38.2%、「歓迎できない」19.2%。「困惑・とまどいを感じる」と「歓迎できない」を合わせた「アンチ歓迎派」が約6割（57.4%）と「歓迎派」を上回りました。
- ・男性は、年齢が若いほど、「アンチ歓迎派」が増加
- ・「歓迎」の理由は圧倒的に「収入」。一方、「困惑・とまどいを感じる」、「歓迎できない」は、（長く）働くことへの不安やネガティブな気持ちが主な理由。

2. 「70歳定年制」が導入されたら…。45.7%が「今の会社で働き続ける」ことを選択

- ・「70歳定年制」が導入された場合の65歳以降について、約半数（45.7%）が「結局は今の会社で働き続ける」と予想。「起業など、組織に頼らず働く」は1割弱（7.6%）
- ・「70歳定年」歓迎派は約7割が「今の会社で働き続ける」と回答。70歳定年制はサラリーマンにとって「現状維持の延長線」にすぎないのだろうか？

3. 96.1%が、70歳まで今の会社で働くことに「不安あり」

- ・96.1%が、70歳まで今の会社で働くことに「不安あり」。「不安なし」はわずか3.9%にとどまる。
- ・70歳まで働くことは「歓迎」であっても、不安を感じながら…という複雑な気持ちも見え隠れする。
- ・「体力」、「パフォーマンスの低下」、「働く意欲の低下」などが不安材料。「若手社員や中堅社員とうまくやっていけるだろうか？」という職場の人間関係を不安視するケースも約2割。

4. 会社に求める支援策は、「待遇改善」、「勤務条件の軽減」、「ふさわしいポスト・職務」

- ・70歳まで今の会社で働くために会社に求める支援策は、「待遇改善」、「軽減された勤務条件」、「高年齢社員にふさわしいポスト・業務開発」が上位3項目。
- ・「40代・50代からの能力開発」、「専門性の向上」などの早いうちからの能力開発の必要性は感じているものの、「起業支援」や「社外派遣」、「インターン制度促進」など“社外に目を向けた”支援を求める人は5%以下にとどまった。

＜報道関係者様 お問い合わせ先＞

一般社団法人 定年後研究所

TEL：03-3454-5650 メール：info@teinengo-lab.or.jp

1. 「70歳定年」について

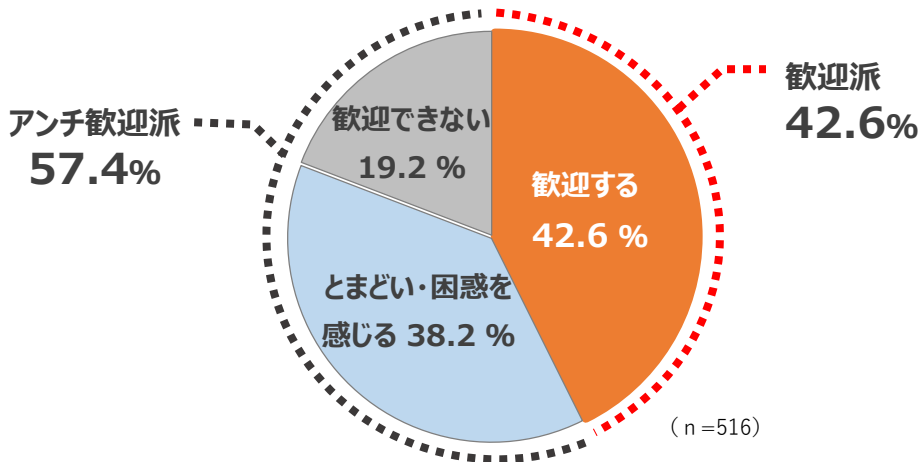
- 「70歳定年」に対し、「歓迎派」約 4 割、「アンチ歓迎派」約 6 割
- 男性は、年齢が若いほど「アンチ歓迎派」が増加

定年制度のある企業に勤務している40代・50代男女、および、定年制度のある企業に勤務し60歳以降も働いている60代前半男女、合計516人に、「70歳定年」（70歳定年あるいは雇用延長）について意見を求めたところ、約 4 割（42.6%）が「歓迎する」と回答した。

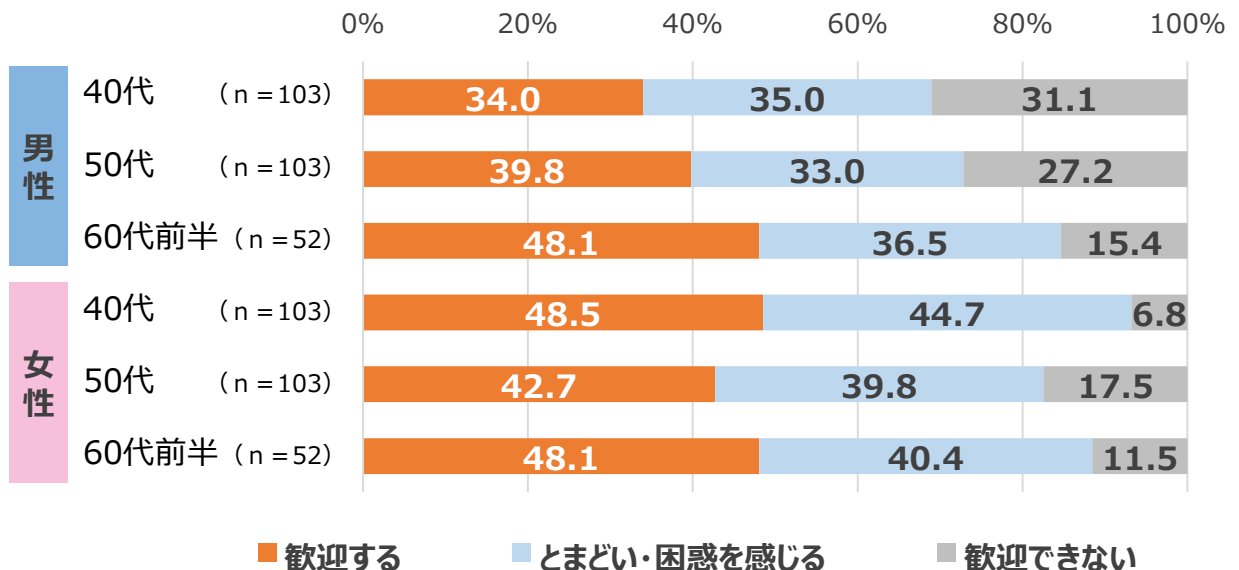
一方で、「とまどい・困惑を感じる」（38.2%）や「歓迎できない」（19.2%）と回答した、「アンチ歓迎派」は約 6 割（57.4%）となり、「歓迎派」を上回った。（図1）

「70歳定年」に対する意見を性年代別でみると、「歓迎派」が多いのは60代前半で、男女とも約半数が「歓迎」している。一方、「歓迎派」が最も少ないのは40代男性で34.0%。

男性は、年代が若いほど、「アンチ歓迎派」が増加し、「アンチ歓迎派」のうち「歓迎できない」が増加していく。（図2）



[図1] 「70歳定年」に対する意見



[図2] 「70歳定年」に対する意見（性年代別）

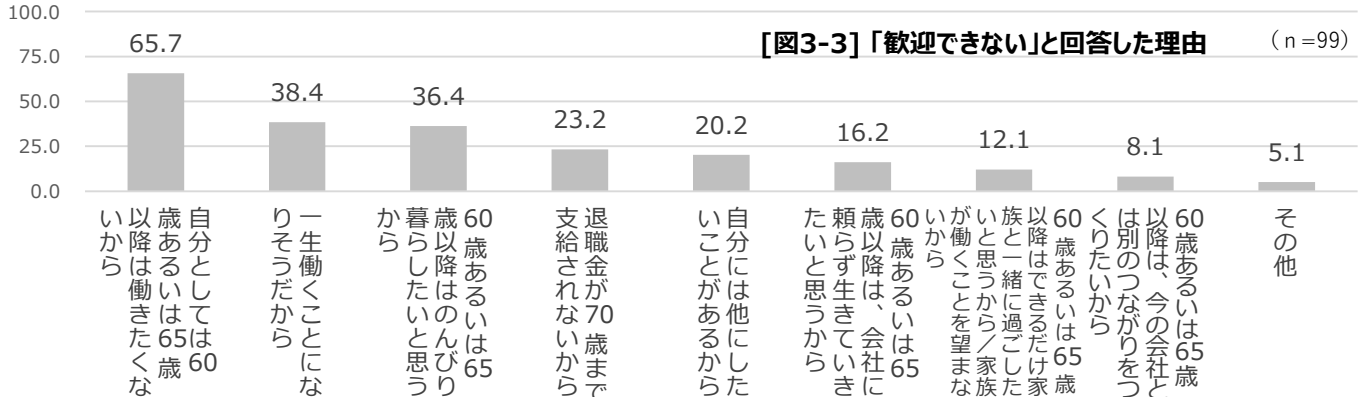
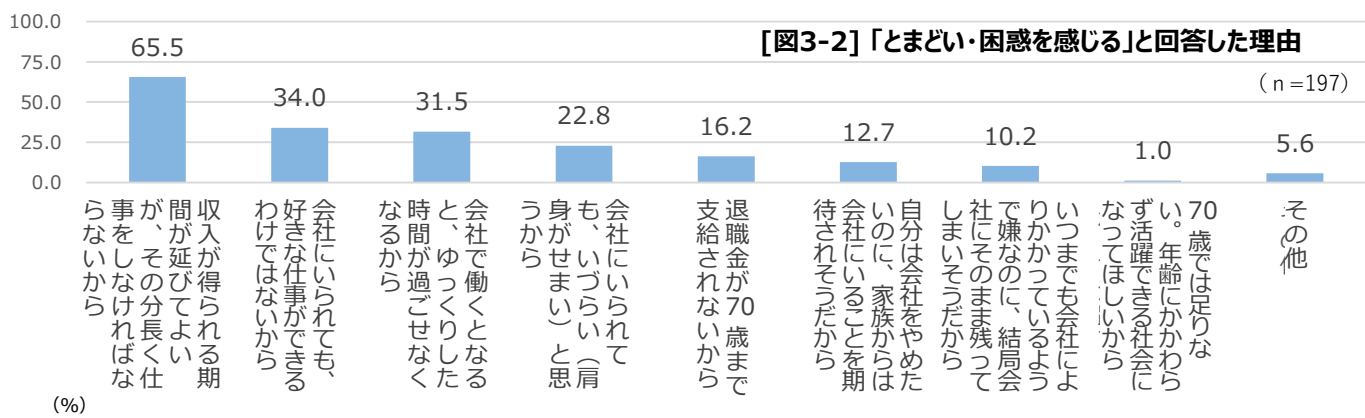
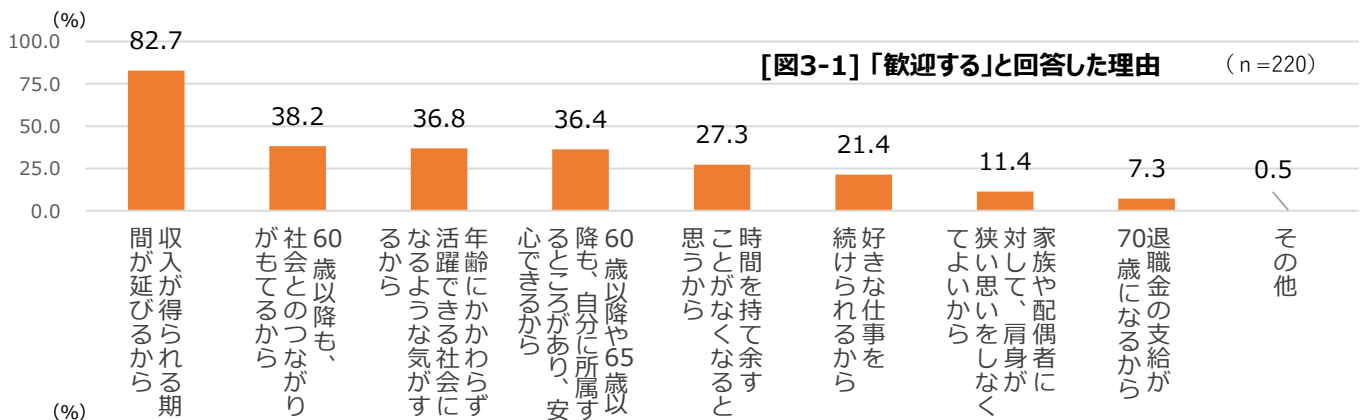
1. 「70歳定年」について

● 「歓迎派」の8割は、「収入」が理由。お金と仕事意欲が意見に影響

「70歳定年」に対し、「歓迎」と回答した220人のうち、82.7%が「収入が得られる期間が延びるから」と回答し、年金受給が後ろ倒しになるなかで、お金を理由に「歓迎」していることがうかがえる。お金以外の理由では、「歓迎」派の約4割が「社会とのつながりがもてるから」、「年齢にかかわらず活躍できる社会になるような気がするから」と回答し、生涯現役社会になることを望む意識もうかがえるが、その一方で、「65歳以降も自分に所属するところがあり、安心できるから」といった「いつまでも何かに頼り続けたい」気持ちもみられる。

「とまどい・困惑を感じる」と回答した197人のうち、65.5%が「収入が得られる期間が延びてよいが、その分長く仕事をしなければならないから」と回答し、お金と仕事のはざまで複雑な気持ちになっていることがうかがえる。また、「会社にいられても好きな仕事ができるわけではない」と回答した人も3割を超え、希望通りの仕事ができないことを見越した意見もみられる。

「歓迎できない」と回答した99人は、「60歳（65歳）以降は働きたくないから」と回答した人が最も多く、「働く意欲がない」ことが、「歓迎できない」理由になっている。



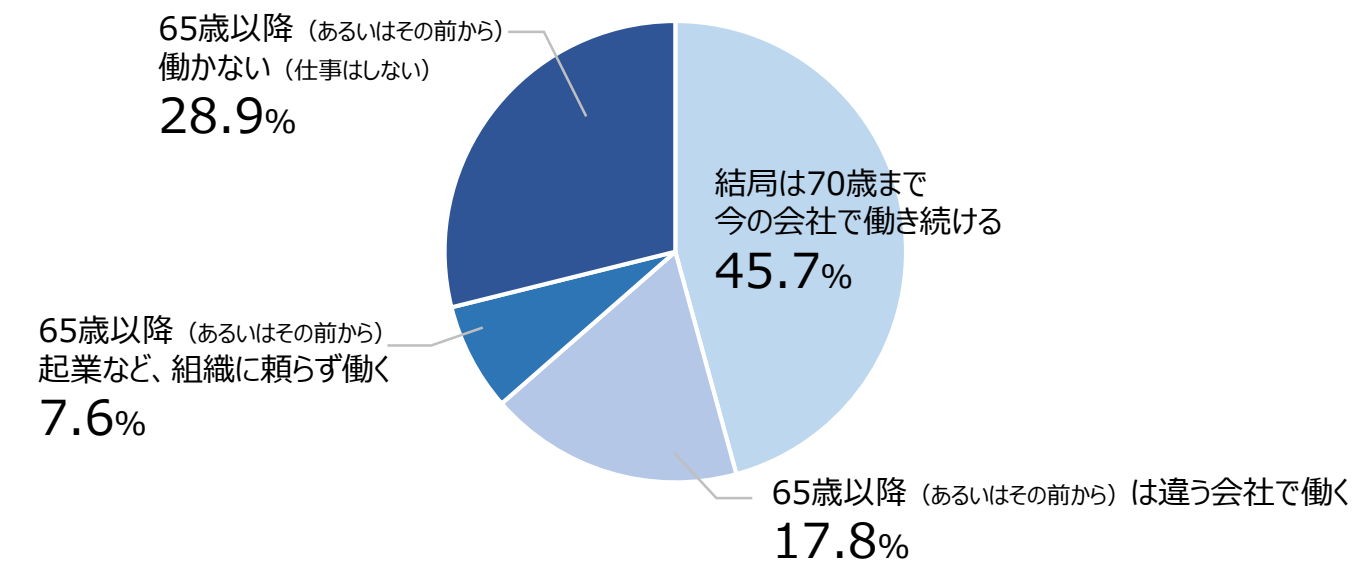
【図3】「70歳定年延長」に対する回答理由

2. 実際の選択（予想）

● 「70歳定年制」が導入されたら……。45.7%が「結局は今の会社で働き続ける」ことを選択

「70歳定年」が実現した場合の65歳以降の働き方について聞いたところ、約半数（45.7%）が「結局は70歳まで今の会社で働き続ける」と回答し、「65歳以降は違う会社で働く」（17.8%）、「起業など、組織に頼らず働く」（7.6%）などを大きく上回った。

「70歳定年」に対する意見別でみると、「歓迎」派の約7割（69.5%）が「結局は70歳まで今の会社で働き続ける」と回答し、全体平均に比べ約24ポイントも上回っており、「70歳定年」が導入された場合、65歳以降も同じ会社で働き続けるサラリーマンが増えることが予想される。



[比率の差]

全体 +10 ポイント
全体 +5 ポイント
全体 -5 ポイント
全体 -10 ポイント

			結局は70歳まで今の会社で働き続ける	65歳以降（あるいはその前から）は違う会社で働く	65歳以降（あるいはその前から）起業など、組織に頼らず働く	65歳以降（あるいはその前から）働かない（仕事はしない）
横%						
性年代別	全体	516	45.7	17.8	7.6	28.9
	40代男性	103	42.7	24.3	10.7	22.3
	40代女性	103	54.4	14.6	3.9	27.2
	50代男性	103	45.6	14.6	9.7	30.1
	50代女性	103	37.9	18.4	6.8	36.9
	60代男性	52	44.2	21.2	9.6	25.0
	60代女性	52	51.9	13.5	3.8	30.8
「70歳定年あるいは70歳雇用延長」について	歓迎する	220	69.5	18.6	4.5	7.3
	とまどい・困惑を感じる	197	33.5	21.3	9.1	36.0
	歓迎できない	99	17.2	9.1	11.1	62.6

【図4】「65歳以降の選択」

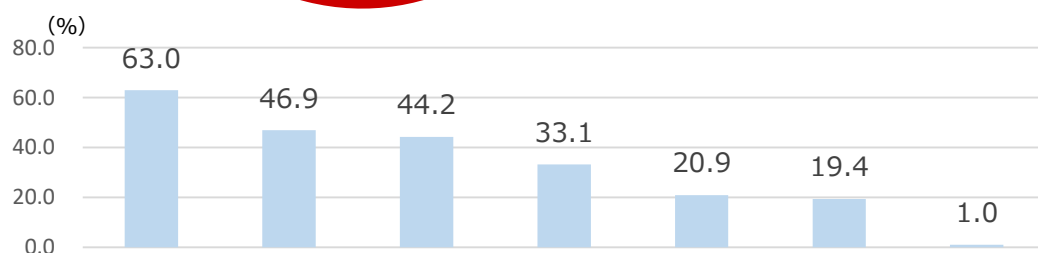
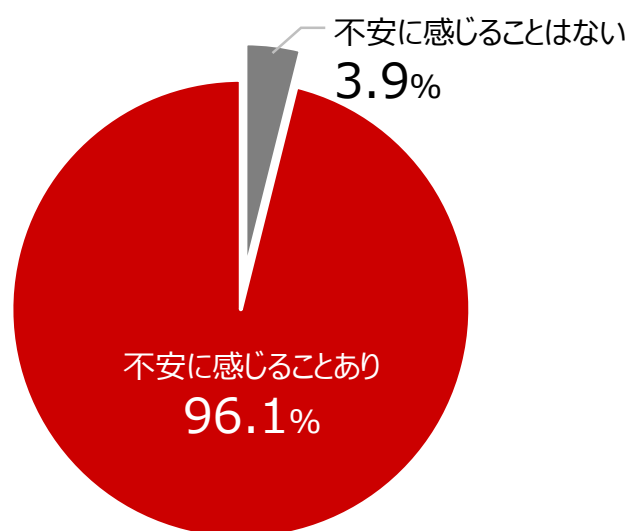
3. 70歳まで今の会社で働く際の不安

- 96.1%が、70歳まで今の会社で働くことに「不安あり」
- 働くことに対する不安は、「体力」、「パフォーマンスの低下」、「働く意欲の低下」など。

70歳まで今の会社で働くことに対する不安について聞いたところ、「不安を感じることはない」と回答した人は3.9%にとどまり、残りの96.1%は何らかの不安を持っていることが明らかになった。

具体的には、「体力が続かないこと」（63.0%）、「50代の時と同じようなパフォーマンスが発揮できるかわからないこと」（46.9%）、「働く意欲が持てるかどうかかわからないこと」（44.2%）などが不安内容として回答された。

なお、2割が「若手社員や中堅社員とうまくやっていけるかどうかかわからないこと」を不安に思っており、職場での居心地の悪さを不安視している。



[比率の差]	
全体	+10 ポイント
全体	+5 ポイント
全体	-5 ポイント
全体	-10 ポイント

		横%	体力が続かないこと	50代の時と同じようなパフォーマンスが発揮できるかわからないこと	働く意欲が持てるかどうかかわからないこと	納得できる収入が得られないこと	若手社員や中堅社員とうまくやっていけるかどうかかわからないこと	定年後にやろうとしていたことができなくなる	その他
全体		516	63.0	46.9	44.2	33.1	20.9	19.4	1.0
性年代別	40代男性	103	63.1	50.5	50.5	35.0	14.6	26.2	1.9
	40代女性	103	68.9	44.7	40.8	30.1	22.3	15.5	0.0
	50代男性	103	56.3	43.7	41.7	32.0	19.4	18.4	1.9
	50代女性	103	69.9	51.5	49.5	37.9	31.1	18.4	1.0
	60代男性	52	51.9	36.5	50.0	34.6	17.3	17.3	0.0
	60代女性	52	61.5	51.9	26.9	26.9	17.3	19.2	0.0

[図5] 70歳まで今の会社で働くことに対する不安有無

4. 70歳まで今の会社で働くために求める支援策

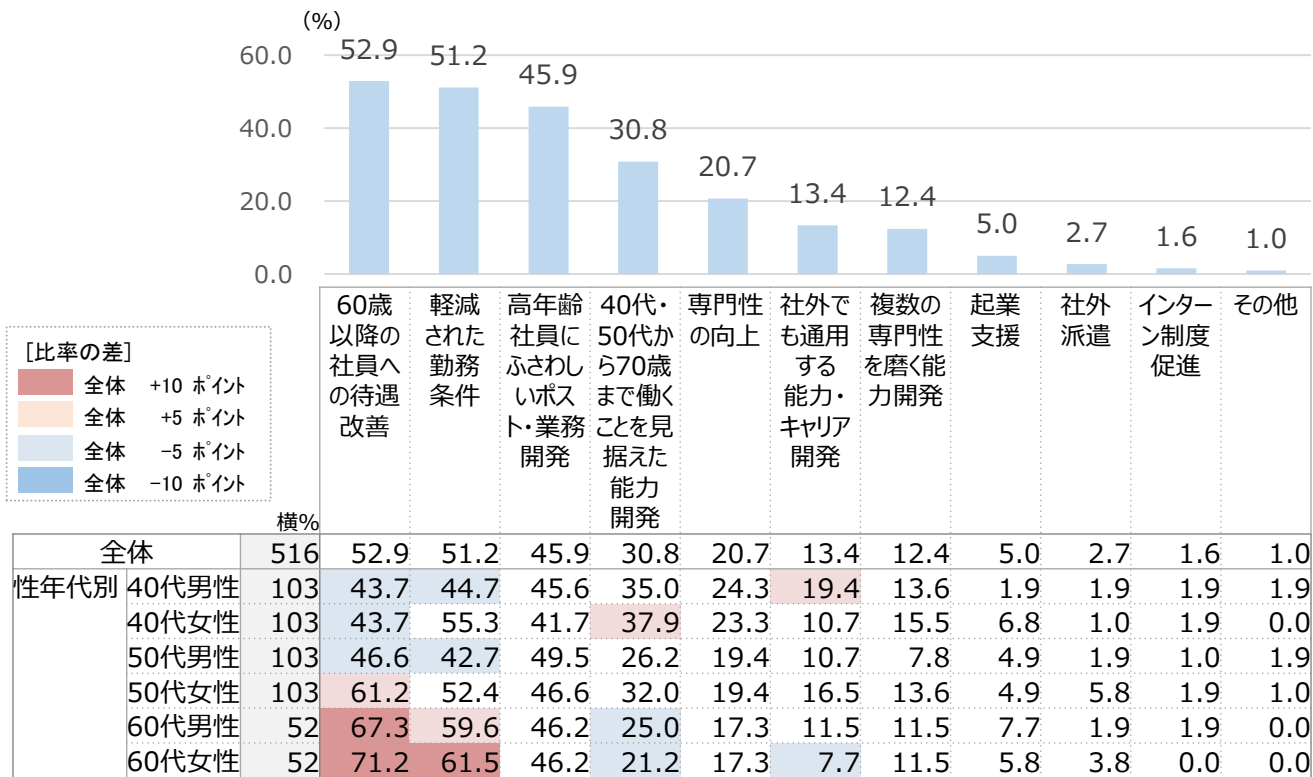
- 70歳まで働くために会社に求める支援策は、「待遇改善」、「勤務条件の軽減」、「ふさわしいポスト・職務」など。

70歳まで今の会社で働くために求める支援策は、「60歳以降の社員への待遇改善」（52.9%）、「軽減された勤務条件」（51.2%）、「高年齢社員にふさわしいポスト・業務開発」（45.9%）が上位3項目となった。

「60歳以降の社員への待遇改善」は年齢の上昇とともに求める人が増え、60代男性の67.3%、60代女性の71.2%が待遇改善を求めている。

40代では男女とも他の年代に比べ「40代・50代から70歳まで働くことを見据えた能力開発」を望む人が多くなっている。

「起業支援」、「社外派遣」、「インターン制度促進」を求める人は5%以下にとどまっている。



【図7】 70歳まで今の会社で働くために必要な支援策

■ 調査概要

調査名：「70歳定年」に関する調査

調査対象：定年制度のある組織に在籍する40代～50代男女（性年代別各103人）
および50代に定年制度のある組織に勤務し、現在も働いている60代前半の男女（各52人） 合計516人

調査地域：全国

調査方法：インターネット調査

調査期間：2019年4月26日(金)～2019年5月2日(木)

（注）：小数点2位以下を四捨五入しているため、合計が100%にならない場合があります

5. 定年後研究所 得丸所長 コメント

定年後研究所は、日本で初めて*の50代以上会社員に特化したセカンドライフの準備支援機関です。（2018年2月設立）（*当研究所調べによる）

「人生100年」、「生涯現役」と言われてから久しく、もはや日常耳慣れた言葉となりました。さらに、政府からは、「働き方改革第2弾」として「65歳以上への継続雇用年齢の引き上げに向けた環境整備」を行うと表明されています。

70歳定年・雇用延長が現実のものとなりつつある中で、定年後研究所では、「一般の会社員は、70歳定年・雇用延長をどのようにとらえているのか」を調査してみました。そこでは意外な結果を見ることができました。

- 「70歳定年・雇用延長」は必ずしも“歓迎されている”わけではない。
- しかも、“歓迎派”を含めたほぼ全員が「70歳まで今の会社で働くこと」を不安視している。
- 「歓迎理由」のほとんどは「収入に対する期待」である。
- 会社に求める支援策は、大半は「現状改善」を求めるにとどまり、「起業支援」「社外派遣」「インターン制度促進」など“将来を見据え外に目を向けた”要望は極めて少数。

この調査では、多くの会社員が「70歳定年・雇用延長」を、単に「現状維持の延長線」と捉えているのではないかと感じさせられる結果となりました。

折しも、政府からは「高年齢者雇用安定法」の改正案の骨子イメージが発表されています。（2019年5月15日未来投資会議）

それによると、

- 他の企業への再就職の実現（子会社、関連会社以外）
- 個人とのフリーランス契約への資金提供
- 個人の起業支援
- 個人の社会貢献活動参加への資金提供

などの支援策整備が、今後企業に求められていくことが予想されます。

企業の人事としては、これらの支援策整備を進めていくと同時に、50代以上社員の「意識改革」のための施策を同時に検討することが求められるのではないのでしょうか。

一般社団法人 定年後研究所 所長
得 丸 英 司

■お問い合わせ先

一般社団法人 定年後研究所
TEL : 03-3454-5650 メール : info@teinengo-lab.or.jp